

アメリカ国立衛生研究所(NIH)によるグルコサミン塩酸塩/コンドロイチン硫酸の変形性膝関節症に対する臨床介入試験(GAIT)結果についての見解

坂本廣司

要 旨

グルコサミン塩酸塩とコンドロイチン硫酸の変形性膝関節症に対する効果について、大規模な臨床介入試験がアメリカ国立衛生研究所（NIH）主導で行われた。その結果、試験参加者全体ではグルコサミン、コンドロイチン硫酸の単独または併用いずれもプラセボ群に比べて有意差をもった効果は示されなかった。しかしながら、症状が中程度～重度の患者を選別して解析するとグルコサミンとコンドロイチン硫酸の併用群で有意な効果のあることが判明した。これらの成績を精査すると統計的な差はないものの、グルコサミンおよびコンドロイチン硫酸はそれぞれにある程度の効果は現れている。ここでは各素材の有用性と作用機序について考察した。

グルコサミン研究 2：25-27, 2006

keywords

グルコサミン塩酸塩, コンドロイチン硫酸, 変形性膝関節症, 臨床試験